

輸出入で機械製品減

食品は販路により明暗

【福岡】新型コロナウイルスの感染拡大は、九州の貨物利用運送事業をメーンとする事業者に暗い影を落としている。企業活動の減退で荷物情報（求車）が低迷し、3月以降、取扱量の減少に陥っている事業者が目立つ。特に、輸出入に関連する機械製品や自動車関連の取り扱いが急減。建設工事の中止による資材需要の低迷で物量低下も起きている。一方、食品物流では、販路により明暗が分かれつつも、集めても消費に伴う需要拡大を背景に堅調な荷動きがみられる。

（上田慎二、高松美希、武原顕）

九州の利用運送事業

自動車・建設落ち込み

事現場がストップし、設備機器の動きも鈍いという。更に、「新型コロナウイルスは、19年10月の消費増税に追い打ちを掛けた。この影響は始まったばかり。先行き不透明で、長期化を覚悟している。引き続き、取引先との連携を深めて新型コロナウイルスの影響を最小限に食い止め、乗り切っていきたい」と話す。

求荷求車ネットワークを主とする福岡ロジテック（永山浩二社長、福岡県宇美町）は、建設資材や輸出入が伴う工業製品の荷動きが鈍化し、20年3月の売上高が前年同月比で15%減となった。

建設工事の中止で資材搬入が減少。中国からの部品供給が途絶えた国内工場の出荷も伸び悩み、輸出入貨物では中国向けのロボット、半導体の取り扱いが低迷した。

同社によると、関釜フェリー（韓国・釜山港―山口県・下関港）の荷動きは、中国の医療用品工場、衣類工場の操業停止の影響により、1月の取扱量は前年同月比で1割にまで激減。その後、マスクや医療用防護服などの輸入再開に伴い、



企業活動の減退で荷物情報が低迷し、3月以降、取扱量の減少に陥っている（イメージ写真）

（※写真は弊社配車係 廣田です。）

貨物利用運送事業をメーンに全国6カ所に拠点を持った九州運輸センター協同組合（福岡市東区）の石井武徳代表理事は、「2月は追い込みを掛ける月間だったのが、全体的に荷動きが悪く、目標を達成できなかった。4月も更に厳しい状況が続いている」とし、来期計画の下方修正の検討に入った。

専属車両（設定便）200台、契約車両数は2万5千台の体制を維持する中、20年3月の売上高は前年同月比で7%ダウン。4月に入ると3割減で推移するなど厳しい事業環境が続く。飲食業への休業要請や大規模イベントの中止などに伴い、飲料が激しく落ち込んだ。自動車産業や鉄鋼業への影響も大きい。

石井氏は「ゼネコンの工

建設工事の中止で資材搬入が減少。中国からの部品供給が途絶えた国内工場の出荷も伸び悩み、輸出入貨物では中国向けのロボット、半導体の取り扱いが低迷した。